



東小だより

第13号

桐生市立東小学校

令和3年9月17日

やさしく かしく たくましい 東っ子

(文責 鈴木 智行)

第1回学校評価アンケート ～よりよい学校づくりに向けて～

1学期に保護者の皆さんにご協力いただいた「学校評価アンケート」と「児童アンケート」の結果を基に、学校としての今後の取組について検討した内容をお知らせします。特に目標に達しなかった項目については、教職員一同、課題意識をもって改善に向けた取組を進めていきたいと考えています。保護者の皆様には引き続き、本校の教育活動へのご理解・ご協力いただけますよう、よろしくお願いたします。

※肯定的回答：「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計

具体的数値目標	肯定的回答の割合 (%)	今後の取組
①「授業中、自分で考えたり友達に考えを伝えたりする場面がある」と回答する児童が80%以上である。	83.4	教員同士が互いの授業を見合ったり校内研修や管理職の授業参観等を通して授業改善を図ったりしていきます。
②「子どもは『学校の授業は分かりやすい』と言っている」と回答する保護者が80%以上である。	83.1	個別支援の充実を図るとともに、必要に応じて補充指導を行っていきます。
③「学校でパソコンやタブレットを使って勉強をしている」と回答する児童が80%以上である。	76.5	全学年に一人1台タブレットが整備されました。教職員で研修を重ね、児童がタブレットの使用に慣れるだけでなく、活用することができるようにしていきます。
④「家で自分から進んで勉強や読書をしている」と回答する児童が80%以上である。	74.9	「学年×10分」を家庭学習の時間として「宿題・読書・自主学習」への取組を推進していきます。また、読書の習慣化に向けて「読書記録」を活用していきます。
⑤「子どもはあいさつや規則正しい生活をしている」と回答する保護者が80%以上である。	83.0	児童が主体となったあいさつ運動の充実を図るとともに、家庭と連携して規則正しい生活への意識を高められるようにしていきます。
⑥「いやなことをされたり言われたりしたとき、先生は助けてくれる」と回答する児童が80%以上である。	83.1	生活アンケートの結果等を活用し、児童の不安や悩みを把握し、その対応について教職員の役割分担を明確にしていきます。
⑦「友達のよいところや違いを認め合って生活している」と回答する児童が80%以上である。	81.3	定期的に児童間の相互理解を促進する活動を取り入れ、友達のよいところに気が付けるようにしていきます。
⑧「きまりや約束を守って生活している」と回答する児童が80%以上である。	88.3	道徳の授業で「考える」「議論する」活動を取り入れ、規範意識を高めていきます。
⑨「学校は、子どもたちの不安や悩みに、担任以外の先生もかかわって対応していると思う」と回答する保護者が80%以上である。	67.9	一時休止していた「ほっとルーム」(相談室)を、密にならないよう学年ごとに利用できるようにしていきます。また、「SOSの出し方」について学習し、悩みや不安があるときは誰にでも相談してよいことを伝えていきます。

具体的数値目標	肯定的回答の割合 (%)	今後の取組
⑩「夢や希望に向かって勉強や運動に取り組んでいる」と回答する児童が80%以上である。	83.4	学期ごとの節目や行事等と関連させ、自分の目標に対する現在の状況について、定期的に振り返る機会を設けます。
⑪「親子で子どもの将来の夢や希望について話し合う機会がある」と回答する保護者が80%以上である。	86.9	キャリアパスポートを持ち帰り、家庭で保護者とともに目標への取組状況について振り返る機会を設けます。
⑫「外で元気に遊び、体育の時間にしっかり運動している」と回答する児童が80%以上である。	87.1	朝の運動において様々な運動に取り組みせることで、体を動かすことの楽しさを味わえるようにします。
⑬「手洗いやうがいなどをし、ハンカチやティッシュを身に付けて生活している」と回答する児童が80%以上である。	90.4	学級担任と養護教諭が連携を図り、学級活動や保健指導を通して健康を意識した生活を送れるようにします。
⑭「地震や火災が起こった時、避難の仕方が分かる」と回答する児童が80%以上である。	93.6	より実践的な避難訓練となるよう内容を工夫するとともに、児童に対する事前・事後指導の充実を図ります。
⑮「交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校をしている」と回答する児童が80%以上である。	95.7	日常の学級指導や一斉下校指導等を実施して、交通安全への意識を高めます。
⑯「学校だよりや学級通信、連絡帳を通して、学校や子どもたちの様子が伝わっている」と回答する保護者が80%以上である。	87.4	各種たよりを定期的に発行し、児童の様子や家庭へのお願い等を伝えるとともに、必要に応じてふれあいメールにより周知していきます。
⑰「授業参観等、学校・学年の行事に参加している」と回答する保護者が80%以上である。	92.5	保護者が参加しやすいよう日程を配慮したり、懇談会の内容を工夫したりするなどしていきます。
⑱「悩みごとや困っていることがある場合、学校に相談しやすい」と回答する保護者が80%以上である。	80.0	児童や学校の様子を保護者に伝える機会を大切にし、保護者と教職員の良好な関係を築いていきます。
⑲「学校は、保護者や地域の方の協力を得て教育活動の効果を高めていると感じる」と回答する保護者が80%以上である。	86.0	感染症の状況を踏まえつつ、教育活動のねらいに応じて、保護者やスクールサポーター等の協力を依頼していきます。
⑳「桐生が好き」と回答する児童が90%以上である。	92.0	生活科や総合的な学習の時間、校外学習等において、身近なまちや桐生の名物等を積極的に取り上げます。
㉑「ICTに関する環境整備に努めていると感じる」と回答する保護者が80%以上である。	80.5	2学期から全学年に一人1台のタブレットが整備されました。教育活動のねらいに応じて効果的に活用していきます。
㉒「施設の管理や安全対策は十分であると感じる」と回答する保護者が80%以上である。	84.3	定期的に安全点検を実施し、不具合がある箇所については迅速に修繕を行います。

◎自由記述

自由記述欄に記載されたご質問等に対して、今後の学校の対応や考え方を回答させていただきます。
なお、児童や教職員個人に関する内容は割愛させていただきました。

--- <学校安全> -----

災害時の避難行動、子の引き渡し、親等が迎えに行けない場合の子の扱いなど、何に書いてありますか。
各地で土砂災害等が発生しておりますので、有事の際の行動計画が知りたいです。

震度5弱以上の地震が発生した場合には、「児童引渡しカード」の依頼に示してあるとおり、あらかじめ提出されたカードに記載されている保護者または保護者に代わる方に迎えに来ていただきます。その他の災害時において児童を保護者に引き渡す場合には、ふれあいメールで迎えの連絡をしていきます。災害や緊急時において児童の安全を確保し、確実に保護者に引き渡すためにも、今後、行動計画を配布するなどして周知を図っていきたいと思います。

--- <交通安全> -----

- ・通学路がガードレールもなく、スピードを出す車も多く大変危険です。対応をお願いします。
- ・先日トラックが突っ込み小学生が死傷するという痛ましい事故が起こってしまいました。東小で起こる前に防げるよう、もう一度通学路、そうでなくても子供が通る道を再度調査し、学校側から市に早急に対応してもらおうということも必要なのでは、と思います。

6月に、区長さん、警察署、市役所、市教育委員会の担当者による「通学路安全対策委員会」を開催し、危険箇所や対応方針等について検討し、ドライバーに安全確認や徐行を促す看板の設置等を進めているところです。また、他県におけるトラック事故を受け、市教育委員から通学路の危険箇所について調査があり、児童の安全な通学に支障がある箇所について報告したところです。ガードレールや歩道の設置については、道幅の関係から早急な改善は難しいのが現状です。引き続き、安全な登下校について児童に指導していきたいと考えています。

--- <PTA活動> -----

もう少し時代に合わせた対応をした方が良いと思う点もあります。例えば、教室のカーテンを洗うのは業者さんに出すなど（PTA予算からどうにかなるのでは?）。

ご指摘のとおり、PTA活動に限らず学校においては前年度にならって行っている教育活動や事業等があり、適宜その見直しを行っていきることが必要と考えています。カーテンの洗濯については、予算が関係しているため、PTA本部とともに検討し、よりよい方法を考えていきます。

--- <学校のICT化> -----

学校通信はメールで配信すれば紙代、印刷代の節約にもなるし、情報も早く、鮮明になります。共働きだったり核家族だったり時代とともに家庭のあり方も変わっています。昔からやっていることを変える、挑戦をするのも良いのではないかな、とっております。

1学期最後の学校通信は、ふれあいメールでも配信してみました。現在、児童は授業でタブレットPCを活用したり、家庭に持ち帰って使用したりするなど、教育におけるICT化がますます進んでいくため、おたよりや通知などの配信もメールが主流となってくると思われます。今後、紙による配付に加えて、試行的にメールによる配信も適宜行い、その利便性について検証していきたいと考えています。

＜生徒指導・教育相談＞

- ・もし、いじめや何かあった時に、先生に相談すると逆恨みなどが怖くて相談できないと言っていました。先日のことです。
- ・友達とトラブルはまだないのですが、授業でわからない時や何か思うことがあっても先生にそれを言っていた方がいいのがよくわからないようです。でも学校は楽しいようです。

いじめや不安なことがあったときに、私たち教職員は、児童が安心して相談できる存在でなければならぬと襟を正す思いです。学校では「生活アンケート」を毎月実施し、児童の悩みやいじめ等の有無について把握に努めています。いじめについては、「いじめは絶対に許さない、相談してくれたあなたを必ず守る、相談することでいじめは解決できる」と児童に伝えていきます。引き続き、児童が安心して悩みや不安を打ち明けられる良好な人間関係を築けるよう努めていきます。また、相談は学級担任だけでなく、教育相談員や養護教諭等、すべての教職員が、いつでも、どんなことでも相談できることを児童に伝えていきます。

＜人権教育＞

児童を指名する際は敬称をつけた方がよいと感じました。

児童を呼ぶ際に「〇〇さん」と敬称を付けることは、児童一人一人を大切な存在として認めていくことにつながり、大切なことと考えます。教職員全体で児童の名前に敬称を付けて呼ぶよう再度、共通理解を図っていきます。併せて、児童も教職員も丁寧な言葉を使って生活できるよう心掛けていきます。

＜連携＞

(必要に応じて保護者や地域住民などの人材を)活用し、もっと「学校-保護者-地域」をフラットにしていけたらと(思います)。

新型コロナウイルス感染症の影響で、読み聞かせや家庭科の支援など地域の方の支援を受けづらい状況にあります。今後、授業や総合的な学習、行事等で支援をいただく場面を整理し、教育活動の充実に向けてボランティア等の依頼をさせていただきますので、その際にご協力をお願いします。

＜学校評価＞

QRコードが読み込めませんでした。Yahooが開いてしまいます。

今年度から利便性を考え、Googleフォームによる回答方式に変更しましたが、不具合が生じてしまい、ご迷惑をおかけしました。現在、原因について把握しているところです。2回目の保護者アンケートにおいては、事前にテスト回答を行い、不具合がないか確認していくとともに、対応方法をマニュアル化するなどして備えたいと考えています。

＜その他＞

(2年) 1組、2組の授業の進み、宿題などの共有ができていますか。

授業の進め方や進度など、両担任で確認しながら進めています。来年度は1学級になることが見込まれることから、引き続き学級間の情報共有を密にし、両クラスの取組に差が出ないように、連携を図っていきます。

